

平成 8 年 9 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

虫の発生数の年による変動

このところ夜になると電気によくカメムシが飛んできます。捕まえると臭い匂いを発し、指についた臭さは洗ってもなかなかとれず苦労する虫で、俗に「へっぷり虫」と呼ばれています。カメムシにも種類は多いのですが、今年やたらと電気に飛んで来るのはチャバネアオカメムシという種類です。緑色の背中に、脇に茶色の帯があり、背中の下部にも茶色の部分があれば、この種類です。いつもの年はあまり気にならなかったのですが、今年は大発生しているようです。今年に限ってなぜこんなに多いのかはよくわかりません。

る種類の虫が年によって大発生したり、そうかと思うと急に減ったりするのはよくあることです。今年に限れば、セミが少ない、特にアブラゼミが少なかったようです。チャドクガは当たり年で、この蛾の幼虫に葉を食い尽くされ丸坊主になったツバキの木をあちこちで見かけます。集団で葉に付いている若い幼虫のうちに退治するのがコツで、幼虫が大きくなってくると一匹一匹が散ってしまい、全部を退治するのが困難になります。退治しそこなうと10月になって親が発生し、夜になると明かりを目指して飛んでくることになります。ドクガにもたくさんの種類がいて、毒があるのはごく一部の種類ですが、このチャドクガはしっかり毒刺毛を持っているので注意が必要です。

鳴く虫のカンタンは例年より多いかなと思いましたが、ヨモギやクズの茂る草地で除草剤を撒かなくなったところが増えたためか、それとも、うるさい鳴き声でカンタンの声を打ち消してしまうアオマツムシの発生が今年は遅れたために、カンタンの声をよく聴くことができ、実際にはカンタンの数が増えたわけでは無いのかもしれませんが。

ここ数年、長渕・友田地区でゴマダラチョウという蝶の調査をしています。幼虫はエノキの葉を食べ、冬は幼虫の状態でエノキの根際で枯れ葉に付いて越冬します。ところが、この蝶には寄生蜂がいて寄生された幼虫は蛹にまではなるのですが、蝶が増える→蜂が増える→蝶が減る→蜂が減る→蝶が増える、という具合に、寄生蜂との関係で年ごとの発生数が左右されてきます。調査では毎年同じ48本のエノキの木で越冬している幼虫の数を数えていますが、その後は1993年217、94年409、95年34、96年601という変化を辿っています。対前年比は94年1.88倍、95年0.08倍、96年17.68倍となります。94年から95年にかけて12分の1に減り、翌年には17.7倍に増えたわけで、このくらいの発生数の変動数は自然界ではごく普通に繰り返されていることになります。

(文責 久保田)

-
- ・ 今年もあいあいハイクを開催します。

実施日 11月9日(土)(小雨決行、荒天の場合は10日に延期)

コース 永山丘陵周辺

募集、詳細に付いては10月1日号の広報を御覧ください。